

## 肱川水系の魚類(2) — 河口感潮域の魚類 —

辻 幸一<sup>※</sup>

先の報文(辻, 1991)では、肱川水系に生息する魚類のうち、1988年から1991年11月までの間に採集または確認した30種の淡水魚を紹介した。本報では、これにその後の調査(1992年3月～1993年3月)で採集した魚種を合わせた中から、河口感潮域で記録された魚類について報告する。

### 調査地および調査方法

採集は、河口部の長浜大橋と新長浜大橋の間(図の①)、河口から約2 km上流の砂質干潟(図の②)および河口から約5 km上流の下流域(図の③)の3か所で実施した(図)。なお、感潮域の最上流地点の確認はできていないが、少なくとも大潮の干潮時に河口から約5 km上流(図の③)まで水位が下がるのを確認した。

採集には網目約4 mmの自作の手網と網目約8 mmの投網を使用した。採集した魚類はただちに冷凍保存し、解凍後にカラー写真を撮影し、10%ホルマリン水溶液で固定した。

種の同定および学名は川那部・水野(1989)および益田ほか編(1984)に従った。

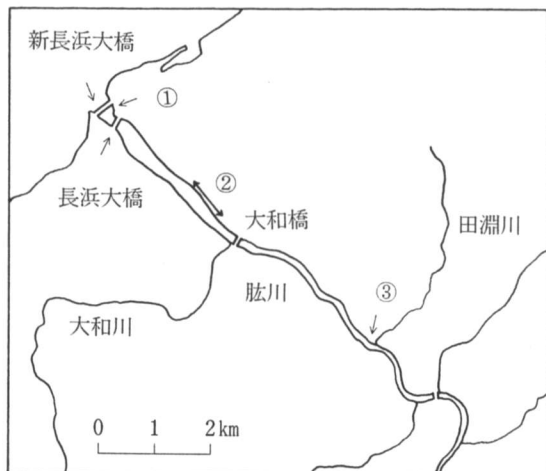


図 肱川河口感潮域

①河口部 ②河口から2 kmの干潟 ③河口から5 kmの地点

### 結果および考察

本調査により、9科16種の魚類を採集した。以下に採集した魚類を種ごとに紹介する。

#### 1 コノシロ *Konosirus punctatus*

体長123mm(写真個体、以下同様)。内湾性の魚で、背

びれの最後の軟条が長く伸びるのが特徴である。河口部の新長浜大橋の下(図の①)で投網によって若魚を採集した。

#### 2 サヨリ *Hyporhamphus sajori*

体長205mm。下顎が長く伸びた特徴的な口を持つ魚で、日本各地の沿岸で普通に見られる。河口部(図の①)で投網によって成魚を採集した。

#### 3 ボラ *Mugil cephalus cephalus*

体長46mm。内湾や河口域に生息する魚で、春から夏にかけて多数の稚魚や若魚が河口域に群れをなして泳ぎ回る。河口部から下流淡水域まで広い範囲で若魚から成魚までを観察または採集した。

#### 4 セスジボラ *Liza affinis*

体長175mm。ボラによく似ているが、本種の頭部背面にははっきりした隆起縁があることで区別できる。生息域はボラと同様である。下流域(図の③)で投網によって若魚を採集した。

#### 5 ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus*

体長52mm。成魚は全長70cmに成長する海水魚であるが、若魚が河口域に侵入してくる。河口干潟(図の②)で投網によって若魚を採集した。

#### 6 クロダイ *Acanthopagrus schlegelii*

体長50mm。内湾や河口に多く生息しており、釣りの対象魚として有名である。感潮域では若魚がよく見られる。河口干潟(図の②)で投網によって成魚と若魚を採集した。

#### 7 ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen*

体長42mm。河口干潟の砂質底に周年生息する小型のハゼで、産卵期には雄の第1背びれが長く伸びる。干潮時の河口干潟(図の②)で手網によって若魚から成魚までを多数採集した。

#### 8 キセルハゼ *Chaenogobius cylindricus*

体長30mm。河口干潟の砂泥底に周年生息する小型のハゼで、県内では筆者が岩松川河口で採集している(辻: 1986)。瀬戸内海からは広島湾での採集の記録があるが(稲葉: 1988)、一般的には希な種と考えられる。1993年3月に干潮時の河口干潟(図の②)で手網によって成魚を2尾採集した。

#### 9 チチブ *Tridentiger obscurus*

体長41mm。水野(1987)の報告ではチチブは1種として特に区別されていない。チチブ類には鹿児島県以南に分布するナガノゴリと、しばしば同一水系に生息し互によく似ているチチブとヌマチチブの3種がある(明仁:

1987)。チチブの胸びれの基部は一樣に白色ないし黄色であるが、ヌマチチブ *T. kroiwae brevispinis* ではその中に不規則な橙色線があることなどで両種を区別できる。肱川水系では現在まで中流・下流の淡水域でヌマチチブが採集され（辻：1991, P.8の写真12）、河口干潟（図の②）で本種が採集された。

10 アカオビシマハゼ *Tridentiger trigonocephalus*  
体長40mm。シマハゼ類は海岸のタイドロープや河口域に生息し、縦縞のはっきり現われれば簡単に同定できる魚である。従来、シマハゼは1種として特に区別されていなかったが、明仁・坂本（1989）により、シモフリシマハゼとアカオビシマハゼの2種に分けられた。河口感潮域にはシモフリシマハゼ *T. bifasciatus* も生息していることが多いが、現在まで河口干潟（図の②）で採集したシマハゼは、尻びれの基部近くに橙色線が入ること、頬部に大きな白点があって頭部下面にはないことなどの特徴から本種であると判断した。

11 アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes*

体長45mm。河口感潮域に周年生息する小型のハゼで、マハゼに似ているが、あまり大きくならないこと、成熟すると体側に横縞が出ること、若魚の第1背鰭に黒斑がないことなどで区別できる。干潮時の河口干潟（図の②）で手網によって多数採集した。

12 ミミズハゼ *Luciogobius guttatus*

体長57mm。体をくねらせて素早く砂や石の下へ潜り込む小型のハゼで、一見ミミズのように見える。海岸や河口感潮域の淡水がしみだすような場所の石の下や砂の中に生息している。河口干潟と下流域（図の②、③）の砂の中から採集した。

13 シロウオ *Leucopsarion petersi*

体長40mm。本種は体が半透明の小型のハゼで、春に産卵のために川の下流域へ遡上してくる。県内では岩松川で多く漁獲され、生きたまま食べる踊り食いがよく知られている。1992年4月2日に下流域（図の③）で死後間もない個体を1尾採集した。

14 ハオコゼ *Hypodytes rubripinnis*

体長52mm。沿岸浅海性の小型の海水魚で、背鰭棘に毒があり、刺されると非常に痛い。河口部（図の①）で投網によって多数採集した。

15 アイナメ *Hexagrammos otakii*

体長35mm。沿岸の岩礁域に生息する。成魚は30cmに達し、側線が4本あることで近縁のクジメと区別できる。河口部（図の①）で手網によって若魚を1尾採集した。

16 クサフグ *Takifugu niphobles*

体長60mm。内湾性の小型のフグで、河口感潮域によく侵入してくる。河口部と河口干潟（図の①～②）で多数採集し、下流域（図の③）でも目視観察した。

表1 肱川河口感潮域の魚類

（○—水野（1987）、●—今回の記録；海—海水魚、週—週来性淡水魚、汽—汽水性淡水魚、週—週河回遊魚）

科 名	種 名	記 録	分 類
ニシン科	コノシロ	○ ●	週
サヨリ科	サヨリ	●	海
ボラ科	ボラ	○ ●	週
	メナダ	○	週
	セスジボラ	○ ●	週
スズキ科	スズキ	○	週
キス科	シロギス	○	海
アジ科	ギンガメアジ	●	週
シマイサキ科	シマイサキ	○	週
タイ科	クロダイ	○ ●	週
ハゼ科	ヒメハゼ	○ ●	汽
	チチブ *	○ ●	汽
	アカオビシマハゼ *	○ ●	汽
	ビリンゴ	○	汽
	キセルハゼ	●	汽
	マハゼ	○	汽
	アシシロハゼ	○ ●	汽
	ヒモハゼ	○	汽
	ミミズハゼ	●	汽
	シロウオ	●	週
イソギンボ科	イダテンギンボ	○	海
ハオコゼ科	ハオコゼ	○ ●	海
アイナメ科	アイナメ	●	海
コチ科	コチ	○	週
ヒラメ科	ヒラメ	○	海
フグ科	クサフグ	○ ●	週
合 計		20種	16種

\*水野（1987）ではそれぞれ区別せずチチブ、シマハゼとなっている。

表2 生活環による淡水魚のグループ分け（後藤：1987）

区 分	種 類
純淡水魚	一時的淡水魚 …… コイ、ナマズ、ドジョウなど
	二次的淡水魚 …… メダカ、カダヤシなど
	陸封性淡水魚 …… カワヨシノボリ、ハナカジカなど
通し回遊魚	降河回遊魚 …… ウナギ、ヤマノカミなど
	週河回遊魚 { I型 …… シシャモ、シロウオなど
	II型 …… シロザケ、イトヨなど
	III型 …… サクラマス、マルタウグイなど
周縁性淡水魚	両側回遊魚 …… アユ、ヨシノボリなど
	汽水性淡水魚 …… チカ、マハゼ、カワガレイなど
	週来性淡水魚 …… ボラ、スズキ、クロダイなど

肱川水系の魚類については、水野(1987)の調査によりこれまでに55種が確認されている。その中で肱川河口の感潮域からは20種が記録されている。今回の調査ではそのうちの10種を確認し、新たに6種(サヨリ、ギンガメアジ、キセルハゼ、ミミズハゼ、シロウオ、アイナメ)を採集した。この結果、肱川河口感潮域から記録された魚類は全部で15科26種となった(表1)。

後藤(1987)は、淡水魚についてその生活環によるグループ分けをおこなっている(表2)。これに基づき肱川河口感潮域で採集されたこれら26種の魚類について、グループ分けを試みると表1のようになる。

シロウオは生活環の大部分を海水域で過ごし、産卵期だけ淡水域に遡上する遡河回遊魚のグループに属し、孵化後直ちに海へ下るⅠ型に含まれる。それ以外の種は、海水魚が河口で採集されたと考えられる6種(ハオコゼ、アイナメなど)を除くと、本来は海水魚であるが生活環の一部または大部分の時期に河口の汽水域(感潮域)や淡水域を利用する周縁性淡水魚のグループに属する。周縁性淡水魚はさらに遇来性淡水魚と汽水性淡水魚に分けられ、一時的に淡水域に侵入する遇来性淡水魚にはボラ、スズキ、クロダイなどの10種が、生活環のほとんどを汽水域(感潮域)で過ごす汽水性淡水魚にはハゼ科のチブ、マハゼ、アシシロハゼなどの9種が当てはまる。

本報告をまとめるにあたり、愛媛県中予水産試験場の清水孝昭氏に同定の協力や貴重な助言をいただいたことに謝意を表します。

## 文 献

- ・明仁・坂本勝一, 1989. シマハゼの再検討. 魚類学雑誌, 36(1), 100-112.
- ・明仁親王, 1987. チブ類. 水野信彦・後藤 晃編, 日本の淡水魚類, 179-188, 東海大学出版会, 東京.
- ・稲葉昭彦編, 1988. 瀬戸内海の生物相Ⅱ, 広島大学理学部付属向島臨海実験所, 19-78.
- ・川那部浩哉・水野信彦監修, 1989. 山溪カラー名鑑「日本の淡水魚」. 山と溪谷社, 東京.
- ・後藤 晃, 1987. 淡水魚-生活環からみたグループ分けと分布域形成. 水野信彦・後藤 晃編, 日本の淡水魚類, 1-15, 東海大学出版会, 東京.
- ・辻 幸一, 1986. 岩松川感潮域の魚類(2). 愛媛県立宇和島東高等学校研究紀要, 12, 48-59.
- ・辻 幸一, 1991. 肱川水系の魚類(1). 南予生物, 6(1・2), 6-9, 南予生物研究会.
- ・益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 1984. 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京.
- ・水野信彦, 1987. 肱川. 第3回自然環境保全基礎調査河川調査報告書, 四国版, 38の1-63, 環境庁.

(つじ こういち)

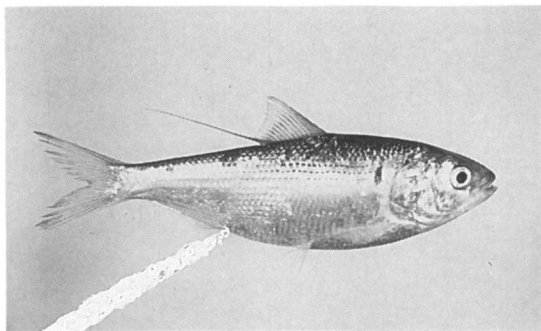


写真1 コノシロ '92.8.21. (123mm)

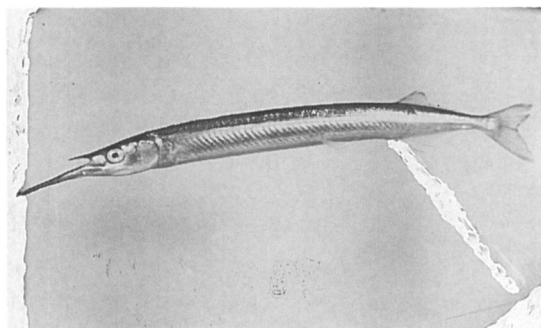


写真2 サヨリ '92.8.21. (205mm)

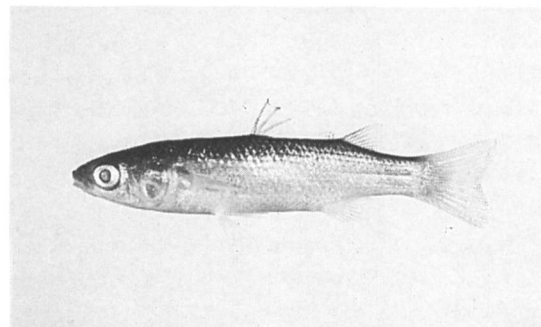


写真3 ボラ '92.8.21. (46mm)

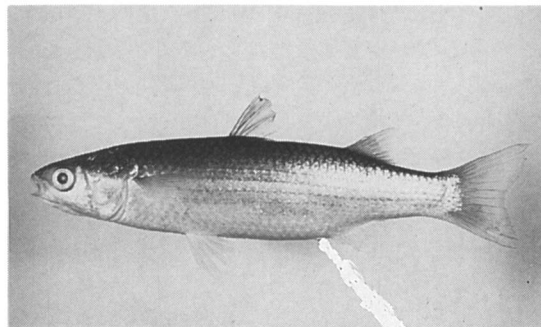


写真4 セスジボラ '92.8.29. (175mm)

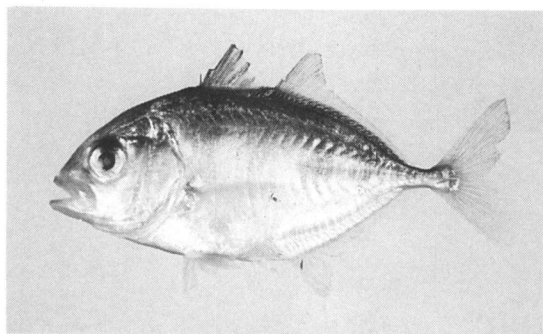


写真5 ギンガメアジ '92.8.21. (52mm)

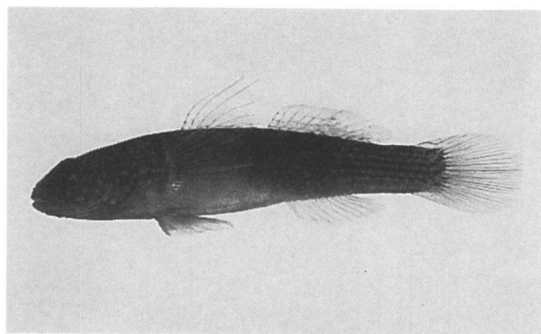


写真9 チチブ '92.4.5. (41mm)

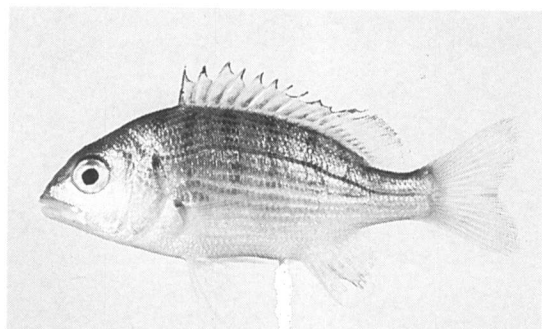


写真6 クロダイ '92.8.21. (50mm)

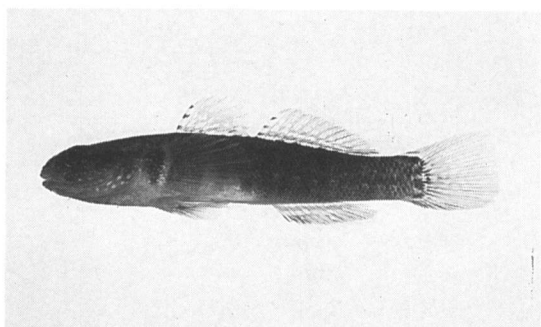


写真10 アカオビシマハゼ '92.4.5. (40mm)

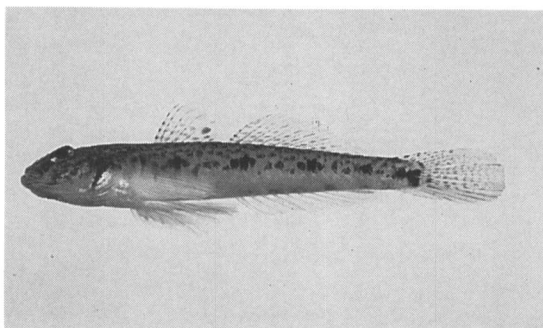


写真7 ヒメハゼ '92.4.5. (42mm)

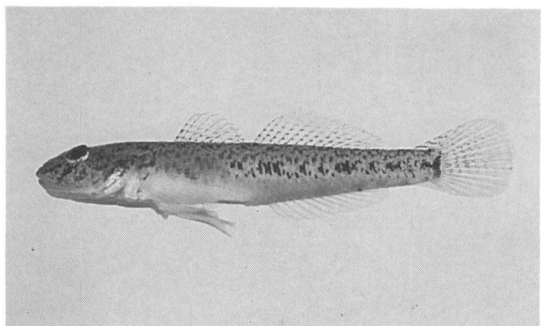


写真11 アシシロハゼ '92.4.5. (45mm)

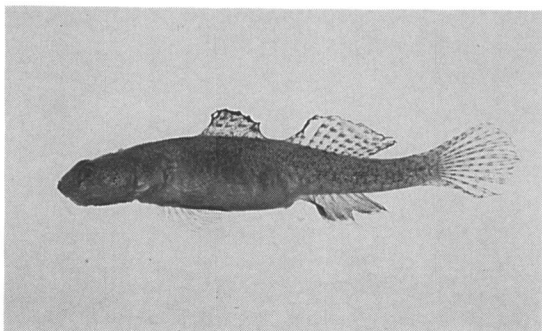


写真8 キセルハゼ '93.3.23. (30mm)

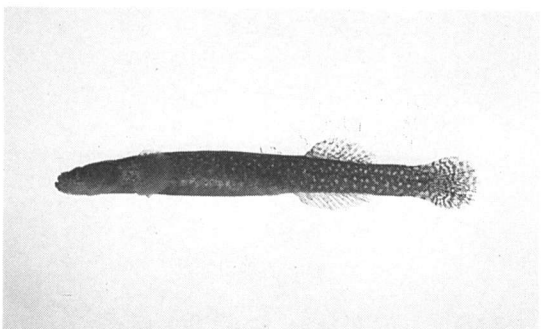


写真12 ミミズハゼ '92.4.5. (57mm)

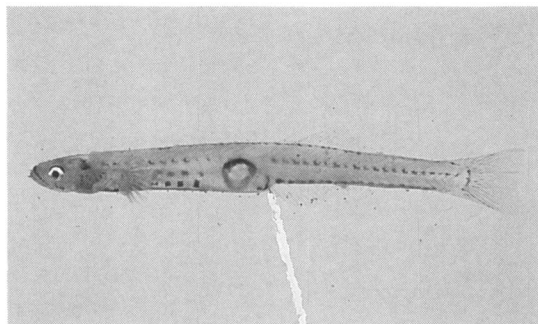


写真13 シロウオ '92.3.7. (40mm)

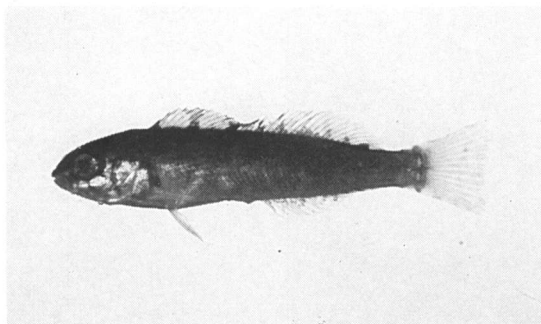


写真15 アイナメ '92.3.2. (35mm)

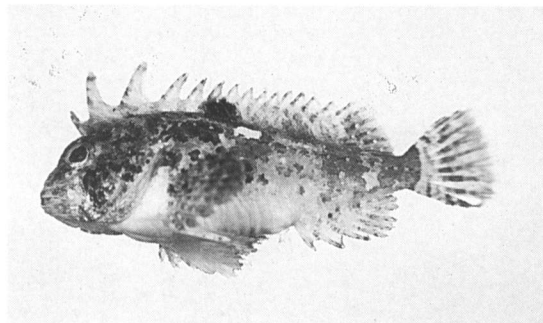


写真14 ハオコゼ '92.3.2. (52mm)

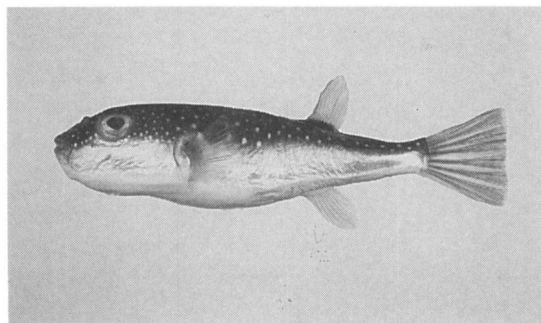


写真16 クサフグ '93.3.23. (60mm)